

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

<30週> 流行性耳下腺炎 - 定点当たり報告数は最近10年間の同
時期と比較して最大 / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

<腸管出血性大腸菌感染症> 第30週時点での本年の累積報告数は1,858
<ヘルパンギーナ> 第30週の報告数は14,628で、定点当たり報告数は
4.84



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - Vero毒素産生性大腸菌 /
咽頭結膜熱 / ヘルパンギーナ / 手足口病 / 無菌性髄膜炎



速報
P.6

夏季に入って分離されたビクトリア系統のB型インフルエンザウイ
ルス - 香川県



海外感染症情報
P.7

ドイツでのQ熱の流行 / 西ナイルウイルスの活動性 - 米国東部



感染症の話
P.8-10

突発性発疹
乳児期、とくに6～18カ月の間に罹患す
ることが多く、突然の高熱と解熱前後の
発疹を特徴とする



読者のコーナー
P.11-12

ビブリオ・バルニ
フィカス / デング
熱について



グラフ総覧(30週)
P.13-19



30週のデータ
P.20-27



発生動向総覧

第30週コメント 8月3日集計分

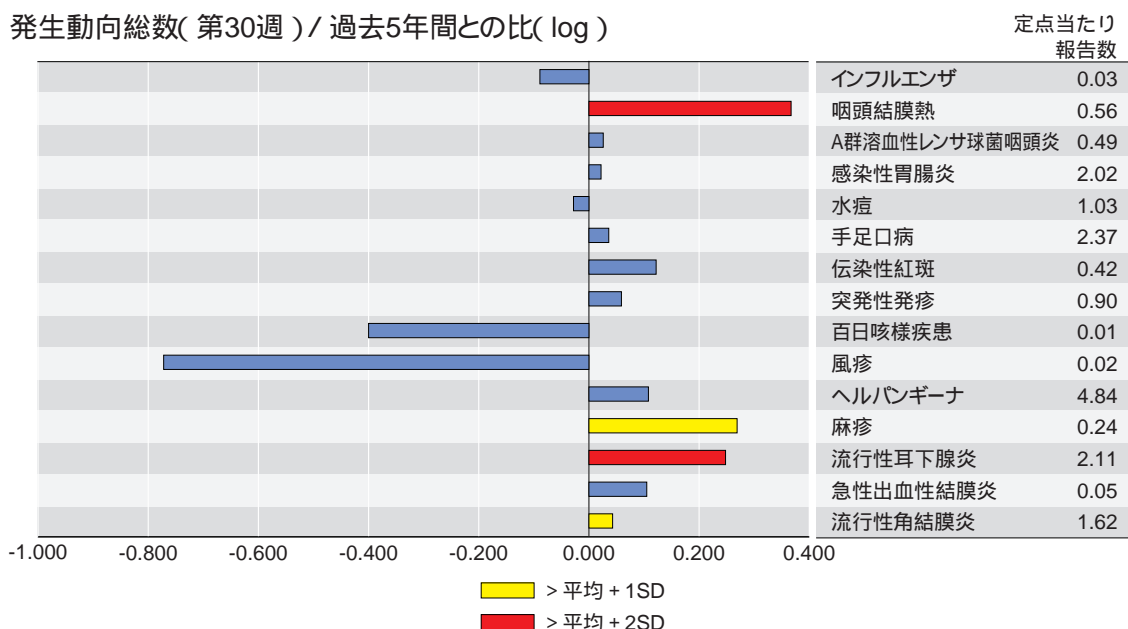
全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢14例(推定感染地: 国内、タイ各3例、インドネシア、インド、中国、エジプト、ベトナム、タイ・インド、タイ・カンボジア、中国・パキスタン・トルコ各1例) 腸チフス1例(推定感染地: 国内)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症177例(詳細は4ページ「注目のべき感染症」参照)
- 4類感染症: アメーバ赤痢7例、ジアルジア症1例、髄膜炎菌性髄膜炎1例、ツツガムシ病1例、日本紅斑熱1例(兵庫県)、破傷風1例、レジオネラ症1例
急性ウイルス性肝炎17例 A型10例
B型7例__感染経路: 性行為3例、不明4例
クロイツフェルト・ヤコブ病1例(孤発性)
後天性免疫不全症候群8例(AIDS 5例、無症候性キャリア3例)
感染経路: 性行為5例 異性間2例、同性間3例)
不明3例
デング熱1例(推定感染地: タイ)、梅毒2例(無症候2例)

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

流行性耳下腺炎は、最近10年間の同時期と比較して最大の定点当たり報告数が12週間続いており、都道府県別では佐賀県6.0、石川県5.2、福井県5.1などの報告がある。咽頭結膜熱は、最近10年間の同時期と比較して最大の定点当たり報告数が2000年第41週から続いており、都道府県別では滋賀県、群馬県各1.4、岐阜県1.3などの報告がある。麻疹、流行性角結膜炎などの定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比較してやや多くなっている。

発生動向総数(第30週) / 過去5年間との比(log)

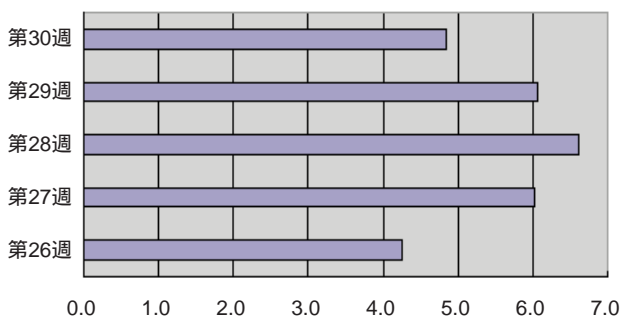


当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

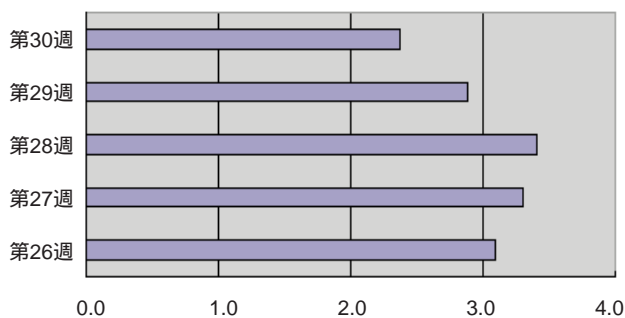
最近の注目疾患－5週間の動き

咽頭結膜熱、流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、前週に比べて増加した。ヘルパンギーナ、手足口病、無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は、前週に比べて減少した。

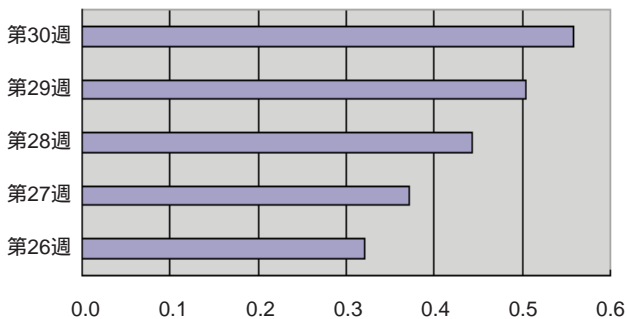
ヘルパンギーナ



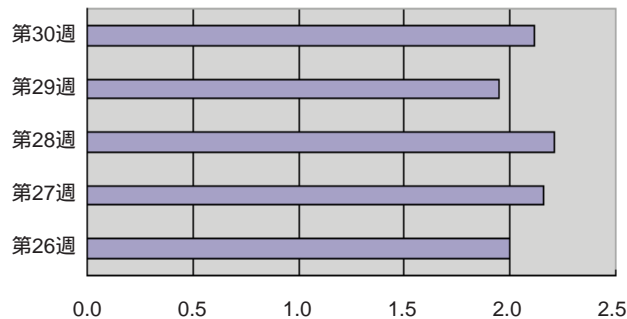
手足口病



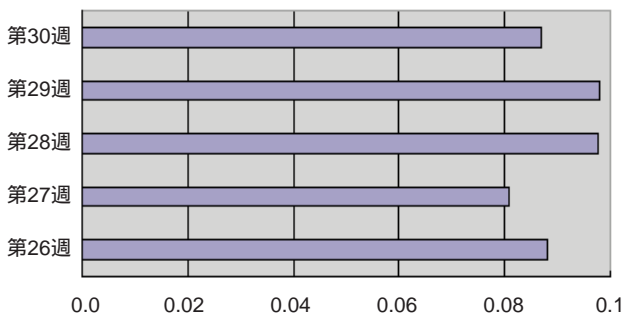
咽頭結膜熱



流行性耳下腺炎



無菌性髄膜炎



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



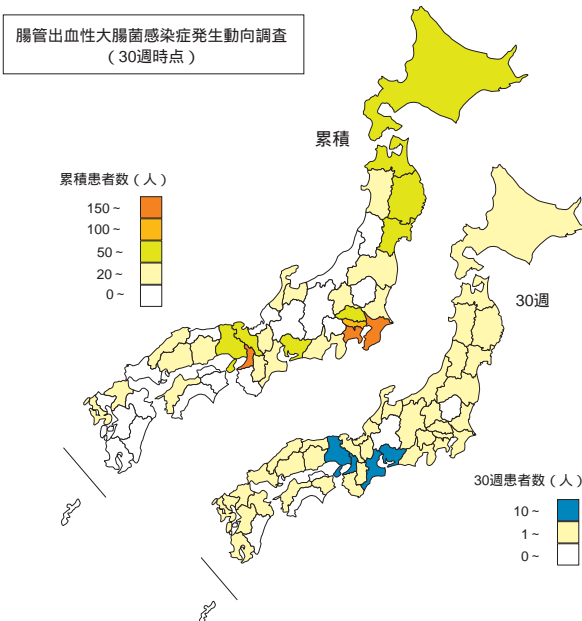
注目すべき感染症

腸管出血性大腸菌感染症流行状況

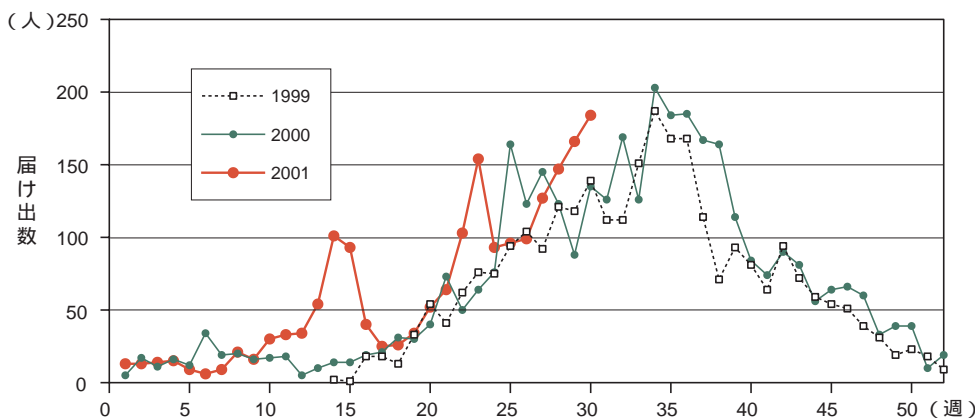
2001年には複数のO157感染症が広域発生した影響で、昨年に比べ患者報告数が早い時期から多くみられている。第30週の報告数は177で、都道府県別では三重県、兵庫県、大阪府などから報告が多くなされている。

原因菌としてはO157(VT1+ VT2以外にVT2もあり)の他に、O26(VT1が多い)、O111(VT1+ VT2)、O103(VT1)などもみられている。

第30週時点での本年の累積報告数は1,858であり、都道府県別では千葉県、大阪府、神奈川県などから報告が多くなされている。本年度の累積報告数を5歳刻みの年齢階級別にみると、0～4歳357、5～9歳254、10～14歳174の順に多くなっているが、他の年齢層でも一定の割合で発生が見られる(検出された病原体については5ページを参照)。



腸管出血性大腸菌感染症 (無症状保菌者含む) 届け出状況



ヘルパンギーナ流行状況

主にA群コクサッキーウイルス、B群コクサッキーウイルス、稀にはエコーウイルスなどを病因とし、発熱、特徴的な咽頭所見を呈する疾患である。1～4歳に多く、その発生は6～8月に増加し、通常は7月頃にピークを形成する。感染症発生動向調査では、全国約3,000の小児科定点より毎週報告がなされている。

第30週の報告数は14,628で、定点当たり報告数は4.84である。また、第30週時点での本年の累積報告数は104,412で、定点当たり累積報告数は34.77である。累積報告数について1歳刻みの年齢階級別にみると、1歳22,197、2歳19,710、3歳16,943の順に多くなっている。また、定点当たり累積報告数を都道府県別にみると、広島県74.9、徳島県66.9、福島県61.0の順に多くなっている(検出された病原体については5ページを参照)。



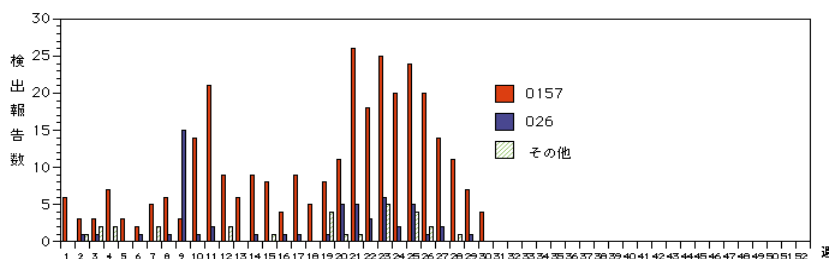
病原体情報

*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。
(2001年8月3日現在報告分)

ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌O157およびO26検出報告 2001年

本年のVero毒素産生性大腸菌の検出総数は、O157が311件、O26が56件である。第21週には、石川県で起きた集団発生事例からのO157検出15件が報告された。最近では、O157が第28週に11件(山形県4、熊本市3、京都市、佐賀県各2)、第29週に7件(佐賀県5、京都市2)、第30週に4件(佐賀県4)、O26が第29週に1件(京都市)の報告があった。

週別Vero毒素産生性大腸菌検出報告数、2001年 (病原微生物検出情報: 2001年8月3日現在報告数)



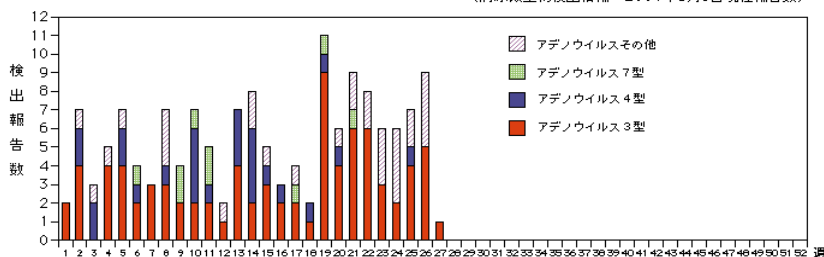
各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を箇に示した。



咽頭結膜熱患者から分離されたウイルス 2001年

本年分離報告されたウイルスは、アデノウイルス3型83件(長野県30、仙台市13、新潟県7、宮崎県5など)、4型26件(兵庫県22、新潟県3、福岡市1)、2型17件(仙台市6、長野県4、兵庫県2、新潟県、岡山県、広島市、福岡県、北九州市各1)、7型9件(新潟県6、北九州市3)、1型6件(広島市3、長野県、長崎県、熊本市各1)、5型6件(兵庫県4、仙台市、北九州市各1)、19型1件(広島市1)である。

週別咽頭結膜熱患者からのアデノウイルス分離報告数、2001年 (病原微生物検出情報: 2001年8月3日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を箇に示した。



ヘルパンギーナ患者から分離されたウイルス 2001年

本年分離報告されたウイルスは、A群コクサッキーウイルス(CA)94件(4型25、2型24、8型14、5型10、10型10、6型8、9型3)、B群コクサッキーウイルス(CB)23件(4型13、5型7、1型2、3型1)、エコーウイルス(E)2件(11型2)である。

手足口病患者から分離されたウイルス 2001年

本年分離報告されたウイルスは、コクサッキーウイルスA16型(CA16)が48件(長野県8、愛媛県7、山形県5、秋田県4、愛知県、福岡市、長崎県、熊本県、宮崎県各3など)、エンテロウイルス71型(EV71)9件(島根県3、長野県、愛媛県各2、東京都、広島県各1)、CA6が8件(奈良県、島根県各3、滋賀県、愛媛県各1)、CA2が2件(神奈川県、長野県各1)、CA4が1件(島根県)、CA10が1件(島根県)、CB2が5件(大阪府5)、エコーウイルス2型(E2)5件(大阪府5)、E18が2件(宮崎県2)である。

無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス 2001年

本年分離報告されたウイルスは、ムンプスウイルス41件(東京都、新潟県各8、大阪市、愛媛県各4など)、エコーウイルス(E)32件(11型22、3型2、6型2、30型2、7型1、14型1、18型1、25型1)、B群コクサッキーウイルス(CB)26件(5型17、3型4、4型3、1型2)、A群コクサッキーウイルス(CA)2件(4型1、9型1)、エンテロウイルス71型(EV71)1件である。



夏季に入って分離されたビクトリア系統のB型インフルエンザウイルス - 香川県

今シーズン(2000/01)の香川県下でのB型インフルエンザウイルスは、第4週に初めて分離され、第17週で終息していた。この間180株が同定され、そのすべてがB/Yamanashi(山梨)166/98、もしくはB/Sichuan(四川)379/99類似株で、いわゆる山形系統であった。

それ以降になって、第20週～第27週までに、ビクトリア系統のB型ウイルスが4株分離された。いずれの症例も医療機関で気管支炎もしくは扁桃炎と診断されており、患者の住所地は県中央部のS市で、症例2～4は同一のA中学生である。調査はできていないが、この期間中A中学ではかぜの流行があり、また、同様な疾患のために、C病院では多くの同中学生が受診した経緯がある。

分離材料(B、C病院から6件、A中学生の材料を送付)は咽頭ぬぐい液で、ウイルス分離にはMDCK細胞、FL細胞、RD18-S細胞を用いたが、MDCK細胞でB型インフルエンザウイルスが分離された。他のウイルスは分離されなかった。国立感染症研究所から分与されたフェレット感染抗血清を用い、HI試験を行った。山形系統であるB/Yamanashi/166/98では<10であったが、ビクトリア系統であるB/Shangdong(山東)07/97(ホモ価160)で10～20のHI価を示した。

本県におけるB型インフルエンザウイルスの流行は、1988年以降山形系統であったが、1996/97シーズンに分離したB型162株のうち19株、1998/99シーズンに分離したB型274株のうち37株がビクトリア系統であった。

これら終息期以降の、特に夏季におけるインフルエンザウイルスの動向は、典型的な症状を示さず、十分に把握することは困難であるが、呼吸器系疾患を中心とした散発症例にも注意し、今後の動向に注目したい。

香川県衛生研究所 亀山妙子 三木一男 山西重機

(IASR2001年8月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

ドイツでのQ熱の流行

Eurosurveillance weekly 2001年7月19日

Eurosurveillance Weeklyは最近イギリスで3例のQ熱患者を報告した。患者は口蹄疫(foot and mouth disease ; FMD)流行中にウシの選別を手伝った農夫である。ヨーロッパの他の場所では、ヒツジの群が人口密集地を通過したときにQ熱の感染が起こったことがあった。ドイツでは、2000年12月から2001年5月までの長期間にわたる流行が、ドイツ政府サーベイランス誌に最近報告された。この流行は、ドイツのNorth-Rhine Westphalia州内の3つの隣接する郡で発生し、感染源としてヒツジの可能性が示唆された。

最初の流行が起こった地域から、73例すべてがベルリンのRobert Koch研究所(RKI)に報告された。このうち5例は臨床症状を示さなかった。この流行は、2001年1月30日から2001年2月17日(5～7週)にピークがあり、2001年5月1日以降の新規患者の発生は週に1～2例に減少した。動物の血液検査から、この地域のいくつかのヒツジの群が感染源である可能性が示された。感染ルートとしては、*Coxiella burnetii* に汚染された胎盤を混じた塵埃の吸入が疑われた。公衆衛生当局と報道機関から、当地の医師や一般人向けに情報提供が行われた。毎年6月から9月に行われるHallenbergの野外劇場フェスティバルに参加する多数の人々は、この病原体に感染する危険性があると想定された。しかし、新たな感染例はその後報告されなかった。

この地域の牧羊業者に対して厳しい予防対策を取るよう指導があり、ヒツジ出産シーズンが終わった後は、報告例数は減少した。最後の症例は5月末(第21週)に報告された。

2つの隣接する地域からRobert Koch研究所に、第7～24週の間Q熱症例がそれぞれ25例、2例報告された。ほとんどの症例は最初の地域の近くに居住していた。牧羊業者に対し予防対策を取ることを義務づけ、2つの地域の一般および内科医に情報が提供された。第24週以降新しい患者は報告されていない。

西ナイルウイルスの活動性 - 米国東部

CDC/MMWR 2001年7月27日

ArboNETは、米国での西ナイルウイルス侵淫の地理的な広がりを監視し、西ナイルウイルスのヒトへの感染危険性が増大している地域を確定するために計画された、強力なヒトと動物に関するサーベイランスシステムであるが、2000年にワシントンD.C.と12州で西ナイルウイルスが活動性を有していることを見出した。このシステムは、当初ワシントンD.C.と大西洋岸とメキシコ湾岸に沿った20州で実行に移され、その後、米国大陸部全域に拡大された。この報告は2001年1月1日から7月25日までのArboNETのデータを要約したものであり、米国東南部での動物における西ナイルウイルスの活動状況を記録するとともに、その拡大の防止活動を広範に遂行する必要性を示す。

2001年における最初のヒトの西ナイルウイルス感染が確認されたのは、7月15日頃に発症したフロリダ州Madison郡の73歳の男性である。患者は現在も脳炎で入院中である。ウマでのサーベイランスで、西ナイルウイルス感染による神経症状を示す3頭のウマがフロリダ州Jefferson郡で見つかった。発症は6月24日であった。死んだトリの調査では、ワシントンD.C.(1羽のトリ)と9州(コネチカット州、フロリダ州、ジョージア州、メリーランド州、マサチューセッツ州、ニュージャージー州、ニューヨーク州、ロードアイランド州、バージニア州)の34郡で、西ナイルウイルス感染142羽のトリが確認された。報告されたトリのうち126羽(89%)がカラスであった。

蚊についての調査では、4州(メリーランド州、ニューヨーク州、コネチカット州、ニュージャージー州)10郡で採集された38の蚊のプールにて、すなわち少なくとも9種類の蚊に西ナイルウイルスが検出された。



感染症の話

突発性発疹

突発性発疹(Exanthema subitum)は、乳児期、とくに6～18カ月の間に罹患することが多く、突然の高熱と解熱前後の発疹を特徴とするウイルス感染症で、予後は一般に良好である。

疫学

感染症発生動向調査によると、報告症例の年齢は0歳と1歳で99%を占めており、それ以上の年齢での報告はまれである。季節性はなく、毎週の定点当たり報告数は一定しており、年次による差異もほとんどない(感染症法施行前に比べると、施行後の方が週の定点当たり報告数にして平均0.2ほど高くなっているが、これは定点設計の差によるものと考えられる)。本疾患の原因ウイルスであるヒトヘルペスウイルス6(HHV-6)および7(HHV-7)の血清疫学調査からは、2～3歳頃までにほとんどの乳幼児が抗体陽性となることが判明しており、不顕性感染は20～40%と報告されている。

このような疫学的特徴から、本疾患は過去感染症発生動向調査のデータ解析の際に基準疾患として利用されてきた。ゴールデンウィークや年末など休日や病院の休業に伴って疾患報告数が変動することはよく知られているが、これを標準化するために、本疾患の発生数がほとんど一定であることを利用して、各疾患の報告数を突発性発疹の報告数で除した値でトレンドを比較しようとした試みがある(平成6年感染症サーベイランス事業年報、382-383p)。また、2歳までにほとんどの児が本疾患に罹患することから、実際の突発性発疹の発生数を推計し、それと本調査の報告数を比較して定点医療機関での疾患捕捉率を算定し、各疾患の人口10万人当たりの罹患率を推定するのに利用されている(病原微生物検出情報、Vol.9、No.4、2p)。

病原体

1910年に本疾患が記載されて以来長い間病原体は不明であったが、1988年山西らにより、HHV-6であることが証明された。その後、突発性発疹の中にエンテロウイルスを原因とするものが含まれていること、またHHV-6、エンテロウイルスいずれでもない原因不明の突発性発疹が存在することが明らかとなり、1994年に新しく発見されたHHV-7も、その初感染像として突発性発疹を呈することが報告された。HHV-7による突発性発疹は、臨床的には二度目の突発性発疹として経験されることが多い。

HHV-6、HHV-7のいずれも、ヘルペスウイルス科 ヘルペスウイルス亜科に属する2本鎖DNAウイルスである。両ウイルスとも初感染以降は潜伏感染状態となり、断続的に唾液中に排泄される。HHV-7の方が排泄される量が多く、容易にウイルスも分離されるが、HHV-6についてはDNAは検出されるものの、ウイルス分離は困難である。

現在のところ、唾液中に排泄されたウイルスが経口的、あるいは経気道的に感染すると考えられているが、なぜ排泄量が多いHHV-7の方がHHV-6より後に感染するのかなど、不明な点も多い。子宮頸管粘液からウイルスDNAが検出されるという報告もあり、周産期における感染も感染経路の一つである可能性がある。一方、母乳については感染経路として否定的である。初感染時の潜伏期は、1950年Kempeらの報告により約10日と推定されている。

臨床症状

38度以上の発熱が3日間ほど続いた後、解熱とともに淡紅色～鮮紅色の斑丘疹が体幹を中心に顔面、四肢に数日間出現する(写真1および2)。随伴症状としては、下痢、眼瞼浮腫、大泉門膨隆、リンパ節腫脹などがあげられるが、多くは発熱と発疹のみで経過する。診断については、特徴的な臨床経過、発疹出現によりなされることがほとんどであり、困難ではない。永山斑(病初期口蓋垂の根元の両側に認められる粟粒大の紅色隆起)を見つけることにより、有熱期間中に診断が予測できることもある。

発熱初期に熱性痙攣を合併することがあるが、一般に予後は良好である。まれに脳炎、脳症、劇症肝炎、血小板減少性紫斑病など重篤な合併症をおこすことがある。



写真1 . 解熱後に出現した発疹

病原診断

HHV-6、HHV-7感染の診断法としては、他のウイルス疾患と同様でウイルス分離、PCRによるウイルスDNAの検出、血清診断などがあるが、現在のところいずれも健康保険適応はない。

ウイルス分離はやや煩雑で、通常患児の末梢血単核球(PBMCs)を検体とし、PBMCs単独あるいは臍帯血リンパ球との共培養により、IL-2、PHAなどリンパ球を活性化する試薬を加えて培養する。発熱期に検査が行われればほぼ100%分離可能であるが、発疹期に至ると分離率は40%程度に下降し、発疹が消失すると分離されることはほとんどない。



写真2 . 躯幹を中心に出現した淡紅色の紅斑

PCRによるウイルスDNAの検出は両ウイルスともにコマーシャルラボにて可能であるが、初感染後に潜伏感染することから、陽性結果の解釈には注意が必要である。潜伏感染部位は単球/マクロファージ、唾液腺などが考えられているため、血液細胞や唾液からDNAが検出されても病的意義は低い。HHV-6あるいはHHV-7を当該疾患の原因ウイルスとして考える場合は、細胞中ではなく血漿中にウイルスDNAが検出されるか、当該臓器からウイルスが検出される必要がある。また、血液細胞中から検出された場合、病的意義を論じるためには定量することが必要である。

血清診断については、HHV-6に関しては間接蛍光抗体法によるIgG、およびIgM抗体の測定がコマーシャルラボにて可能であるが、HHV-7との交叉反応があるので、結果の解釈には注意が必要である。実験室レベルでは、中和法による抗体測定法が確立されている。

治療・予防

通常は予後良好のため、対症療法にて経過観察するのみであり、特に予防が問題となることもない。

In vitro において、ガンシクロビルおよびホスカルネットによりHHV-6の増殖が高率に阻害されたとする報告がある。アシクロビルに関しては、高濃度の時にのみ同様の効果が認められている。

突発性発疹は従来予後良好な疾患であり、実際抗ウイルス療法を考慮しなければならない症例に遭遇することは稀であるが、重篤な合併症を呈した場合、あるいは移植患者やAIDS患者のように免疫抑制状態にある患者では、抗ウイルス剤の使用も検討する価値があると思われる。

感染症法における取り扱い

突発性発疹は4類感染症定点報告疾患であり、全国約3,000の小児科定点より毎週年齢階級別発生数が報告されている。報告の基準は以下の通りである。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ以下の2つの基準のすべてを満たすもの

1. 突然に発熱(38度以上)し、2～4日間持続
2. 解熱に前後して体幹部、四肢、顔面の発疹が出現

上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの。

学校保健法における取り扱い

突発性発疹は学校において予防すべき伝染病1～3種には含まれていない。

(国立感染症研究所感染症情報センター)



読者のコーナー

Q: ビブリオ・バルニフィカスというどのような菌ですか? また、どのような人が感染すると危険なのでしょうか?
(熊本県S医師)

ビブリオ・バルニフィカスについて

この菌は、乳糖発酵することなどの点で腸炎ビブリオとは異なることがわかり、1980年に *Vibrio vulnificus* の学名が付けられました(*vulnus* はラテン語で創傷の意味)。生物型はI-IIIの3種類、血清型は16種類くらいが確認されています。腸炎ビブリオより塩濃度が低いところでも生育するので、海水中、特に汽水域などに生育し、海水温が15～20度位をこえると増殖が活発になります。動物プランクトンに付着し、このプランクトンなどから魚介類が汚染されます。病原性については不明な部分も多く、すべての菌が病気を引き起こすわけではないと推測されています。

この病気は、傷口から菌が入る場合と、汚染された魚貝類などから経口感染する場合があります。後者は特に敗血症から死に至ることがあります。

しかし敗血症については全ての人が発病するわけではなく、肝硬変、ヘモクロマトーシスなどの肝臓疾患、糖尿病、癌の治療やHIV感染により免疫抑制状態にある人、などが危険であるとされています。患者の75%が肝臓疾患をかかえた人であるという報告もあります。

鉄剤の投与の危険性も指摘されており、「バルニフィカスによる敗血症は肝疾患や肝障害患者で血清鉄が高値を示す時期の者、または治療の目的で鉄剤を投与されている貧血患者におこりやすい。(朝倉書店 医系微生物学)と記載されています。

動物実験でも、マウスを用いた実験でバルニフィカスの腹腔内投与の際、鉄剤を投与することによりLD50が100万倍も低下する、つまり少量のバルニフィカスで死亡するということがわかっております。しかしながら、鉄剤の経口投与のみの治療を受けている患者での発生は、ほとんど報告されておられません。

実際には50歳以上の男性が80%を占めており、発病には種々の要素が絡むものと考えられます。また、肝疾患でも、どの程度の肝障害の人が気をつけたらよいのかなど不明な点も多く、今後の疫学研究に期待するところです。

なお、この病気についての詳しい症状や治療法に関しては、当感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)の「トピックス」にも掲載されています。

(国立感染症研究所感染症情報センター)

Q: 今度タイを中心に東南アジアへ旅行します。その地域ではデング熱が増えていると聞きましたが、ワクチンはあるのでしょうか? (東京都女子大生)

デング熱について

初めにデング熱のワクチンのことから言いますと、タイなどで開発が行われていますが、今のところは残念ながら一般に使えるワクチンはありません。

確かに最近デング熱は世界の種々の地域で増えているようです。例えば、タイでは昨年1年間の報告数が2万例以下なのに、今年になってからは7月上旬の時点で4万3千例以上報告されています。タイだけでなく、シンガポール、ベトナム、パナマなどでも増えているとの報告がなされています。デング熱ウイルスには1～4型の4種類がありますが、タイなどでは毒力が強いとされる2型が多くなっていると報告されています。

デング熱はネツタイシマカなどに刺されることで感染します。本来昼間刺す蚊ですが、最近では夕方にも刺すようになってきたと言われています。マラリアと違う面があり、田舎よりむしろ人が沢山住んでいる都会に多く発生する病気です。そのような時間帯に外出しないで、エアコンが効いた密閉可能な部屋で蚊取り線香を炊くのが一番です。しかし、それが不可能なことも多いでしょうが、その場合には長袖・長ズボンを着用し、皮膚の露出部や衣類に虫除けスプレーやクリームなどを使うのが効果的です。その成分としてはN, N-diethyl-m-toluamide(DEETと略す)を含むものが一般的であり、世界的には30%程度の濃度のものがよく使われています。しかし、特に眼、口腔内、鼻腔内などの粘膜に触れないよう注意する必要があります。小児の場合には、特にこの注意を厳格にする必要があります。

なお、この病気の詳細についてはIDWR1999年第25週(通巻第1巻第12号)「感染症の話」に掲載されています。

(国立感染症研究所感染症情報センター)

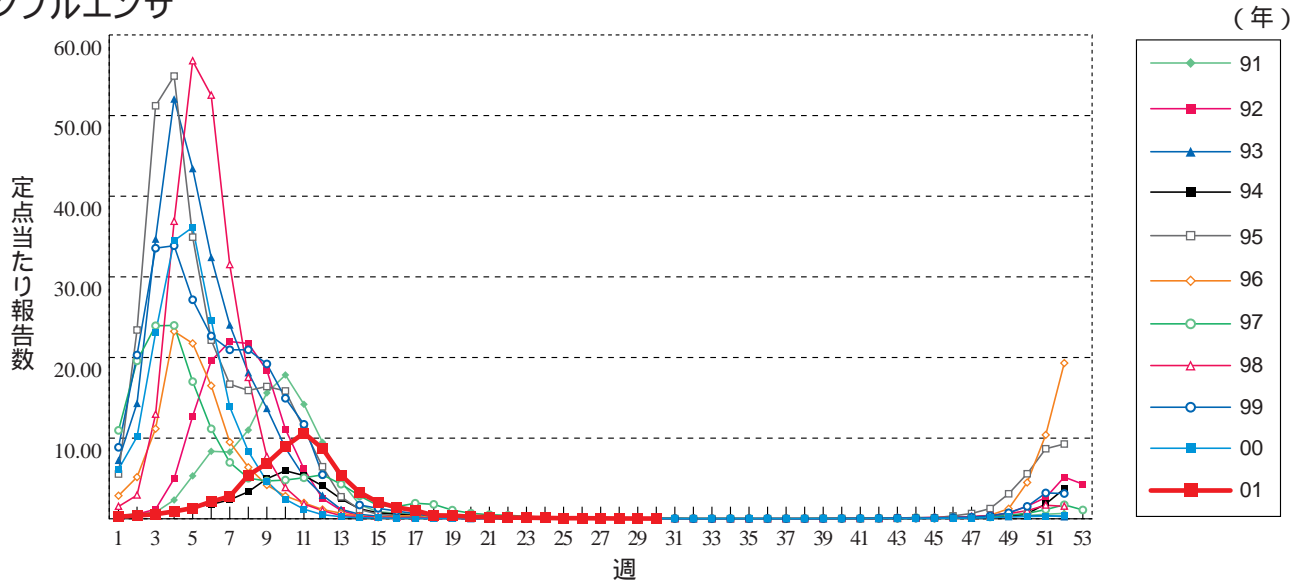
「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-QをつけてこちらまでEメールでどうぞ。

idsc-query@nih.go.jp

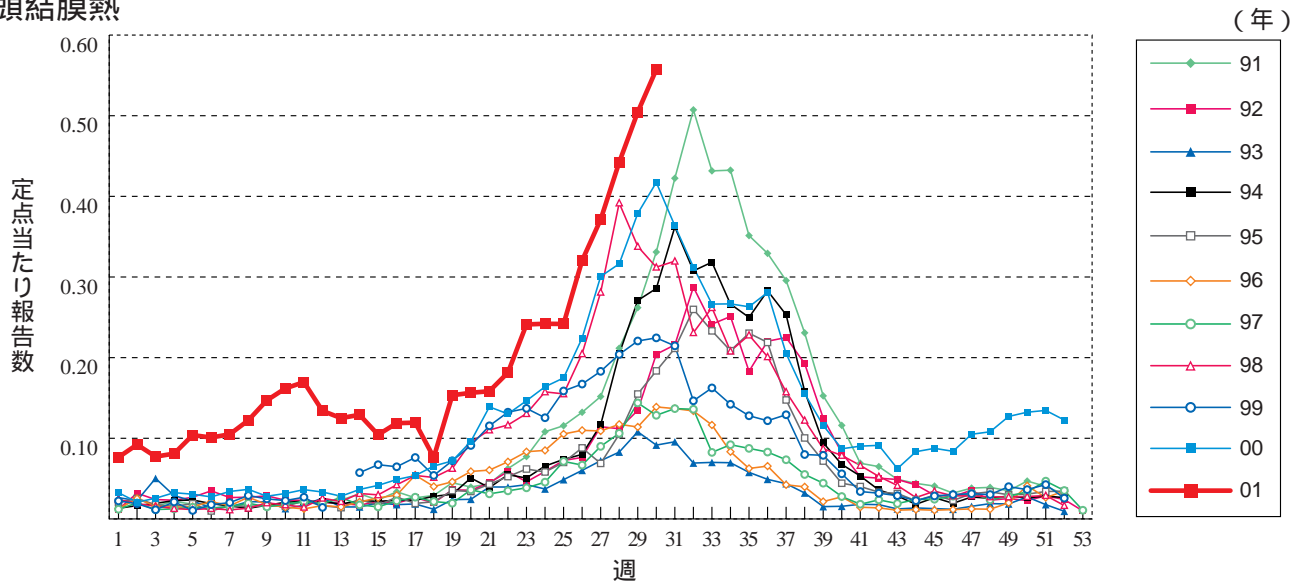


グラフ総覧(30週)

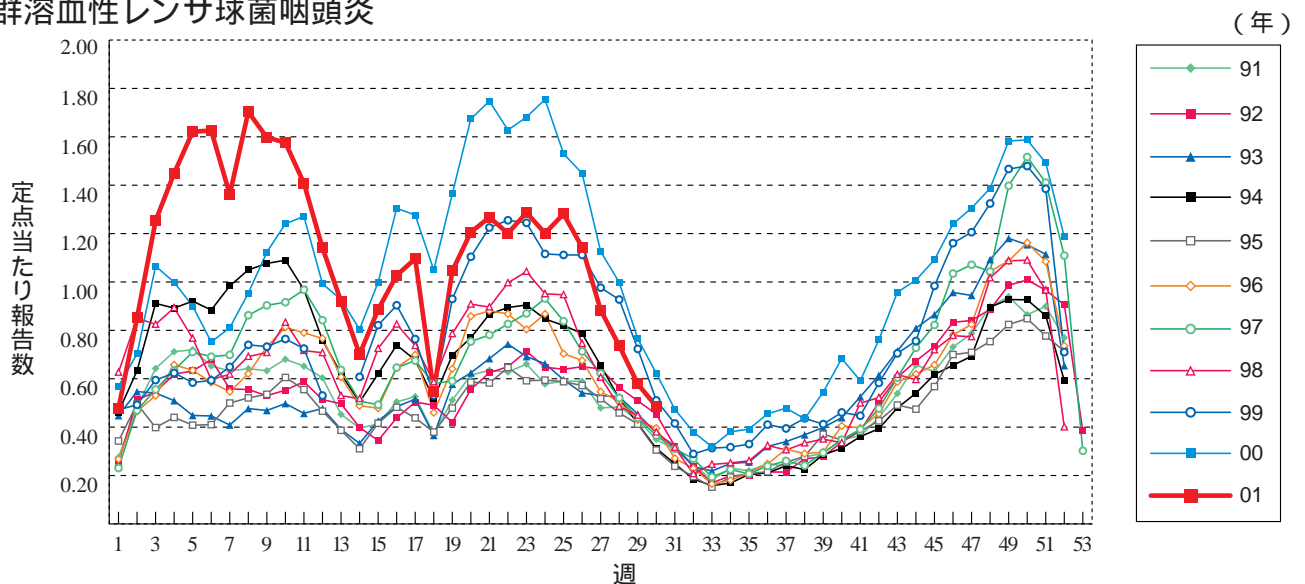
インフルエンザ



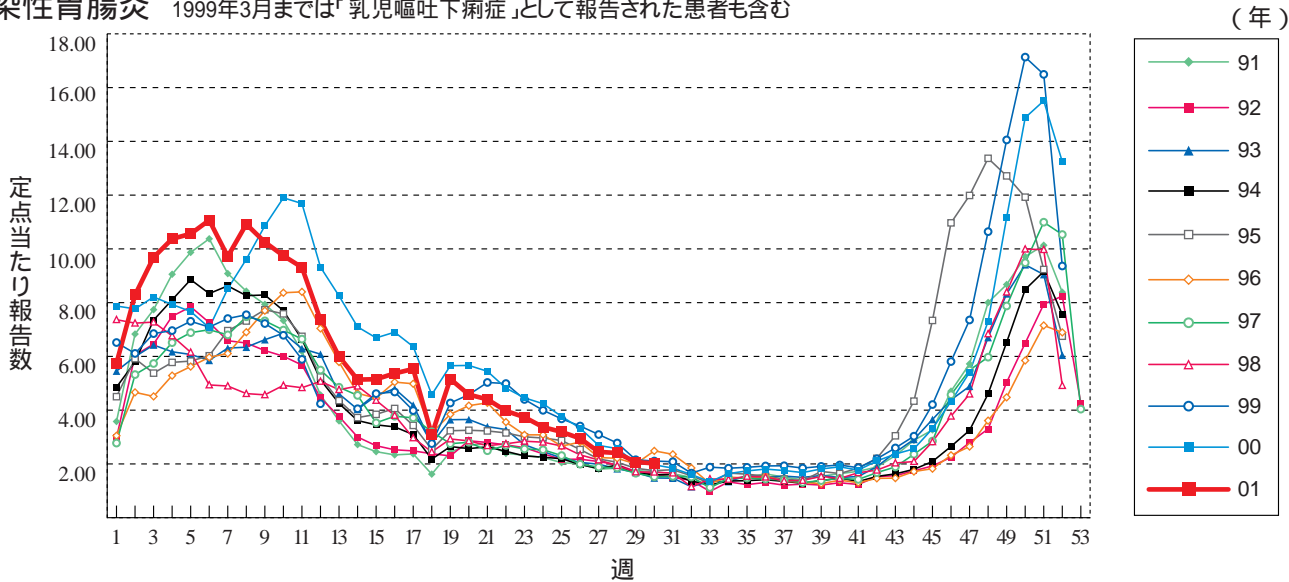
咽頭結膜熱



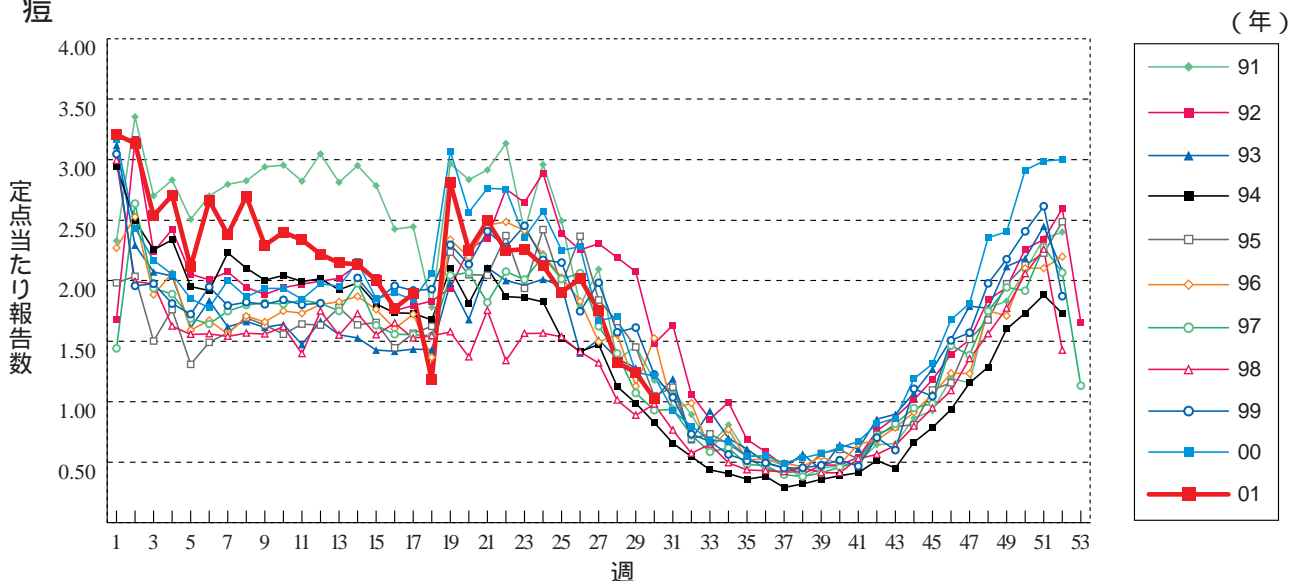
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



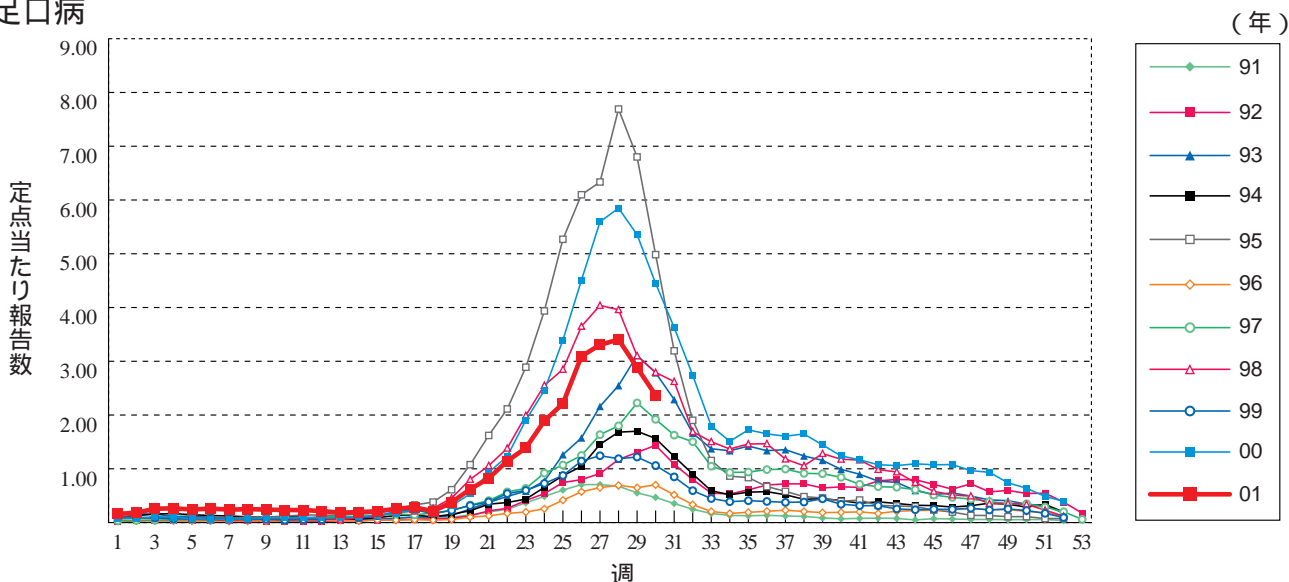
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



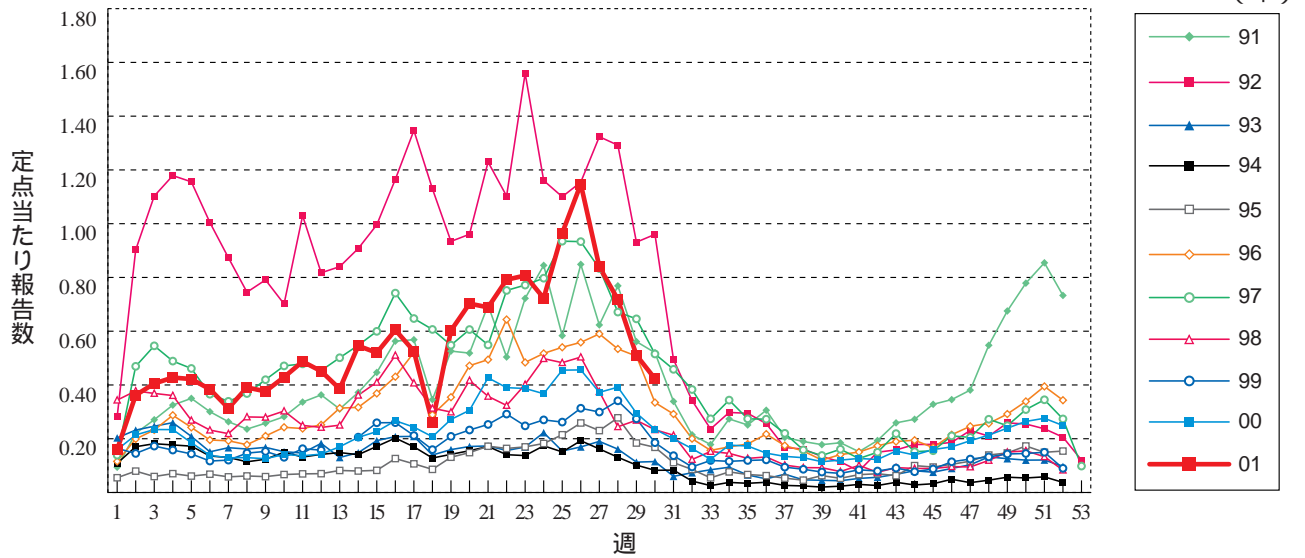
水痘



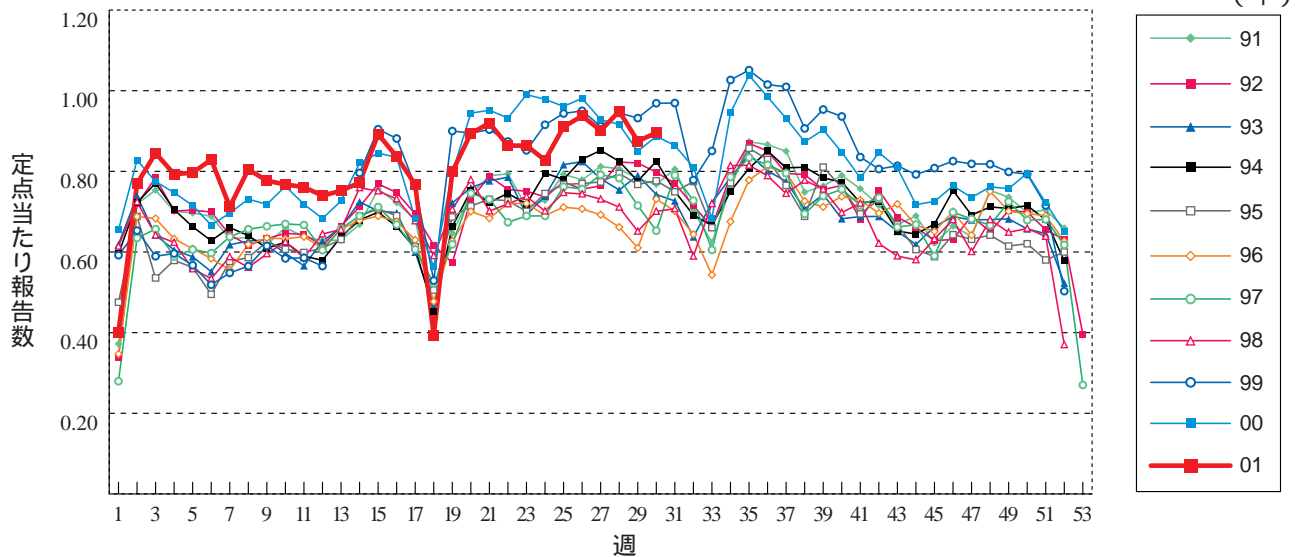
手足口病



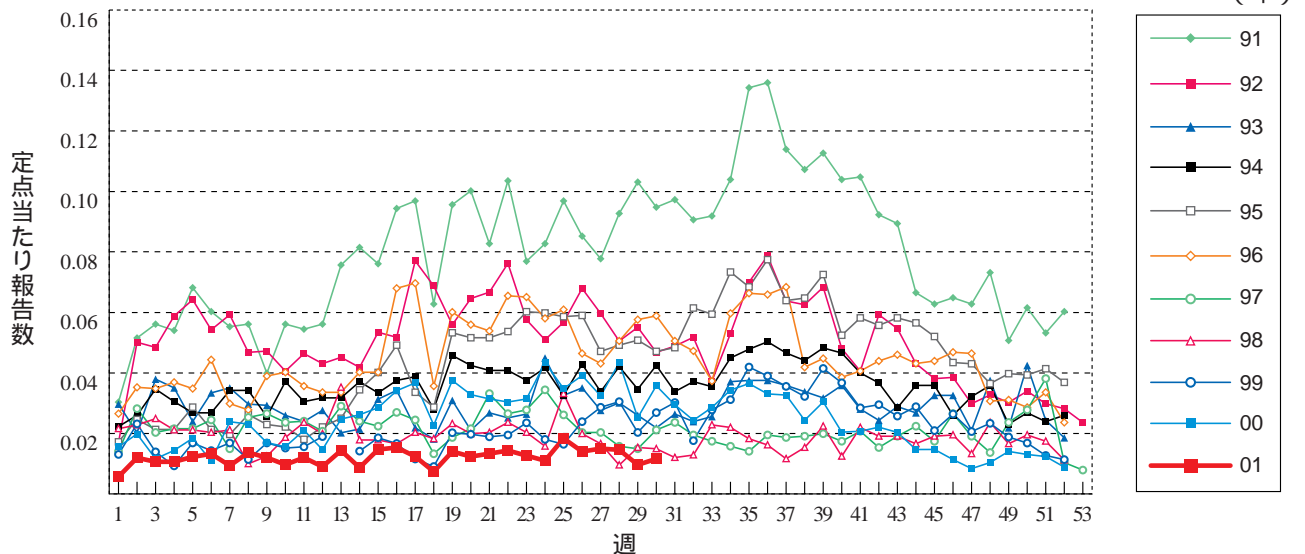
伝染性紅斑



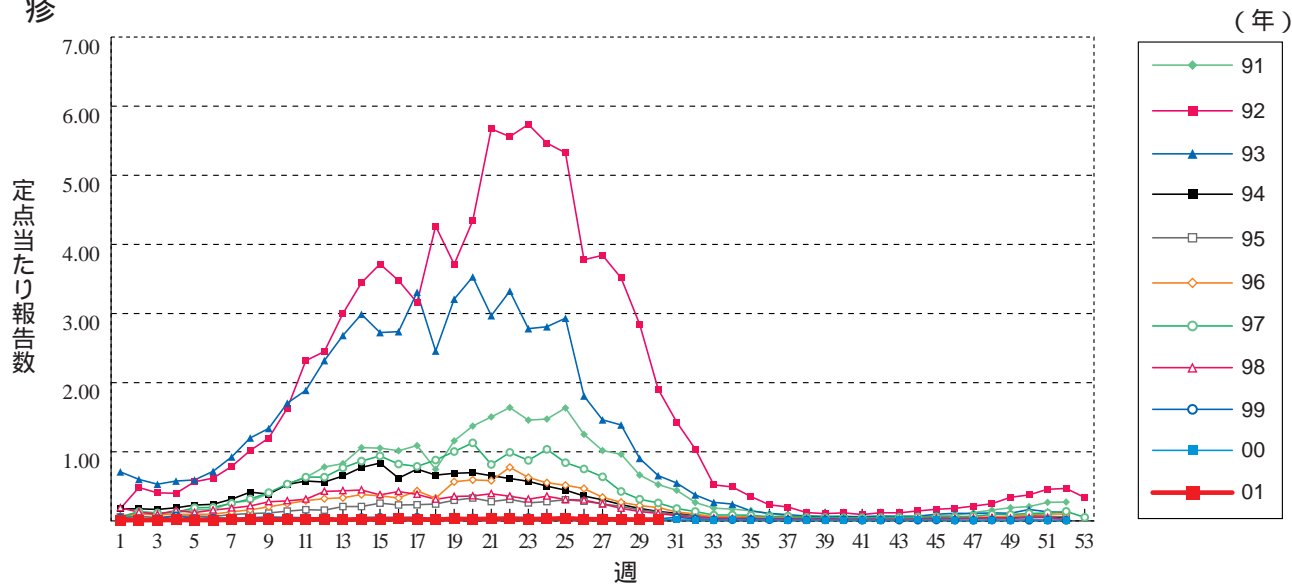
突発性発疹



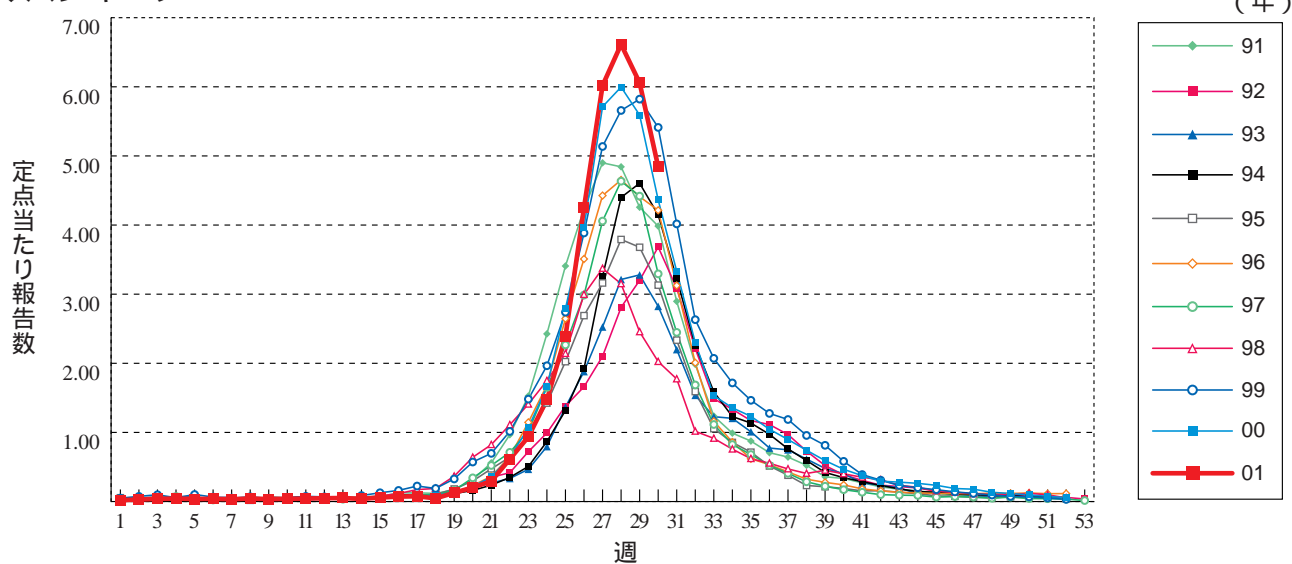
百日咳



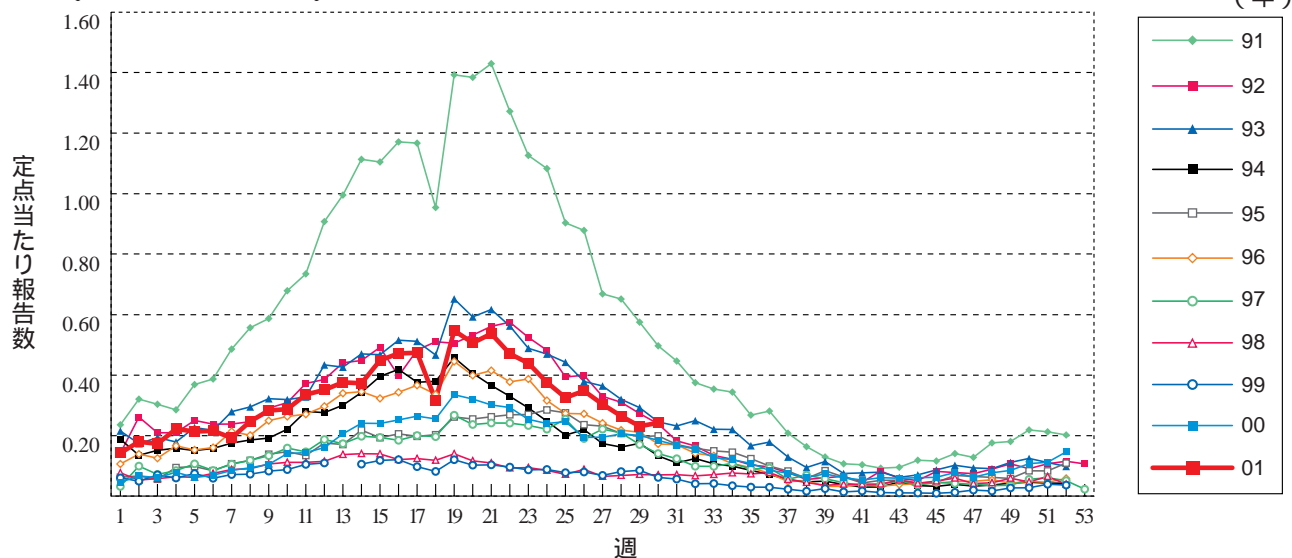
風 疹



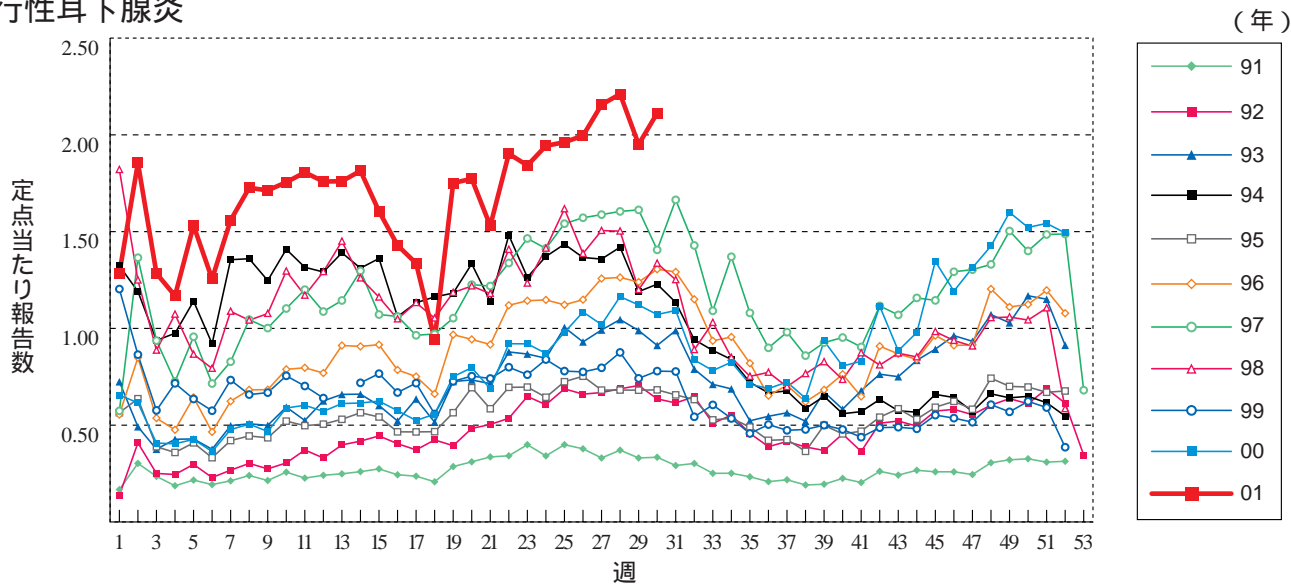
ヘルパンギーナ



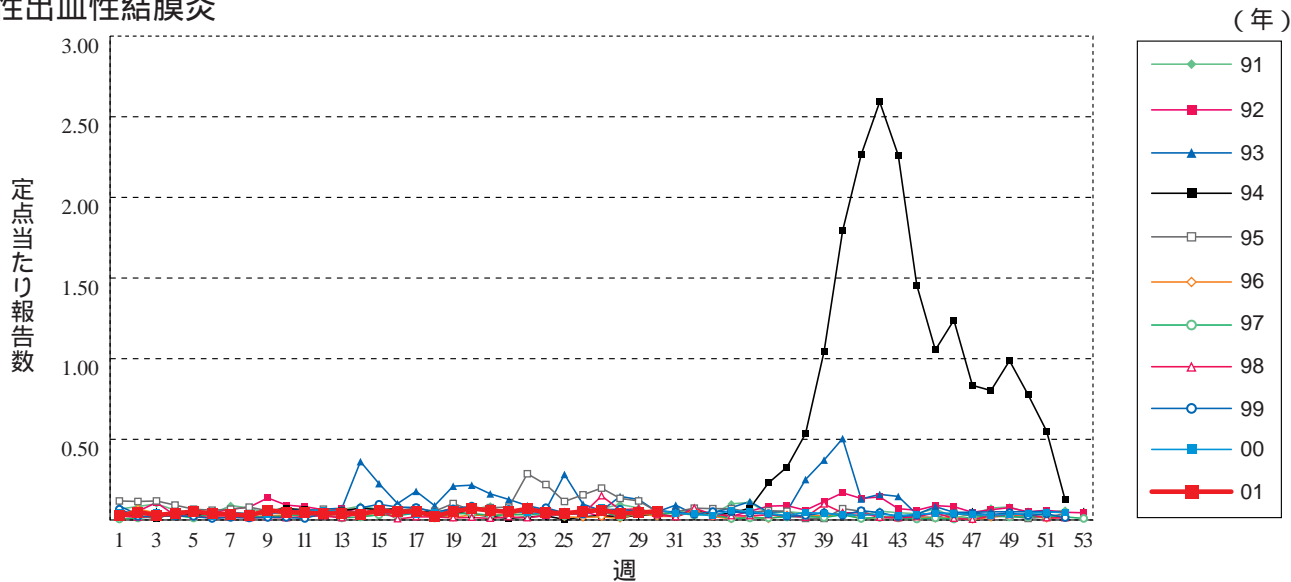
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



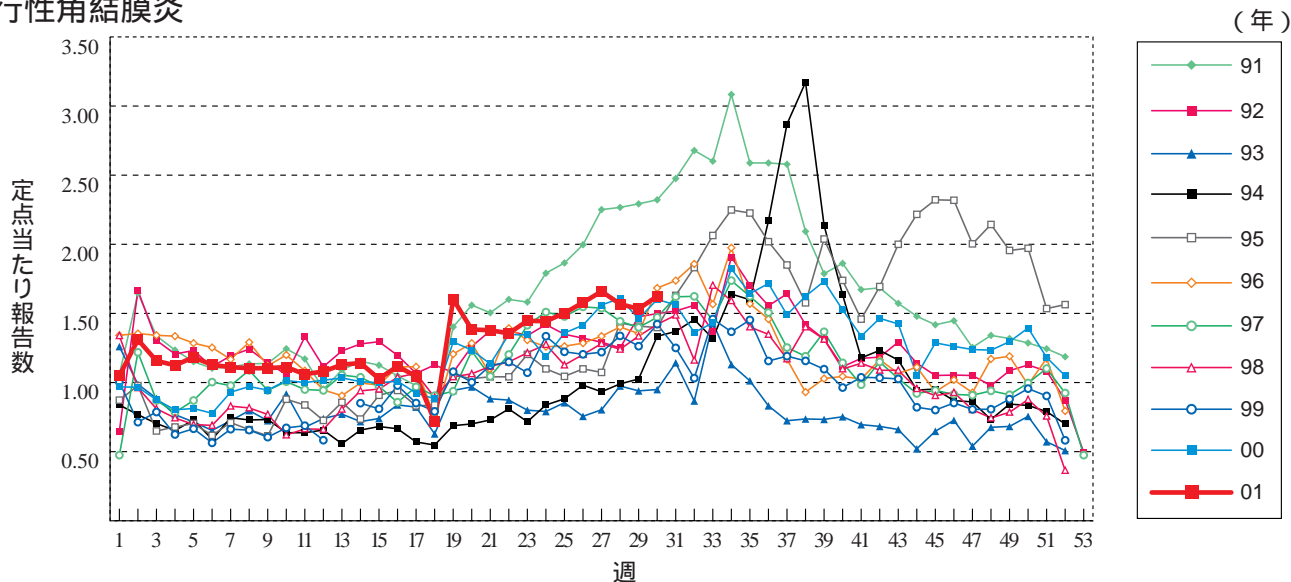
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

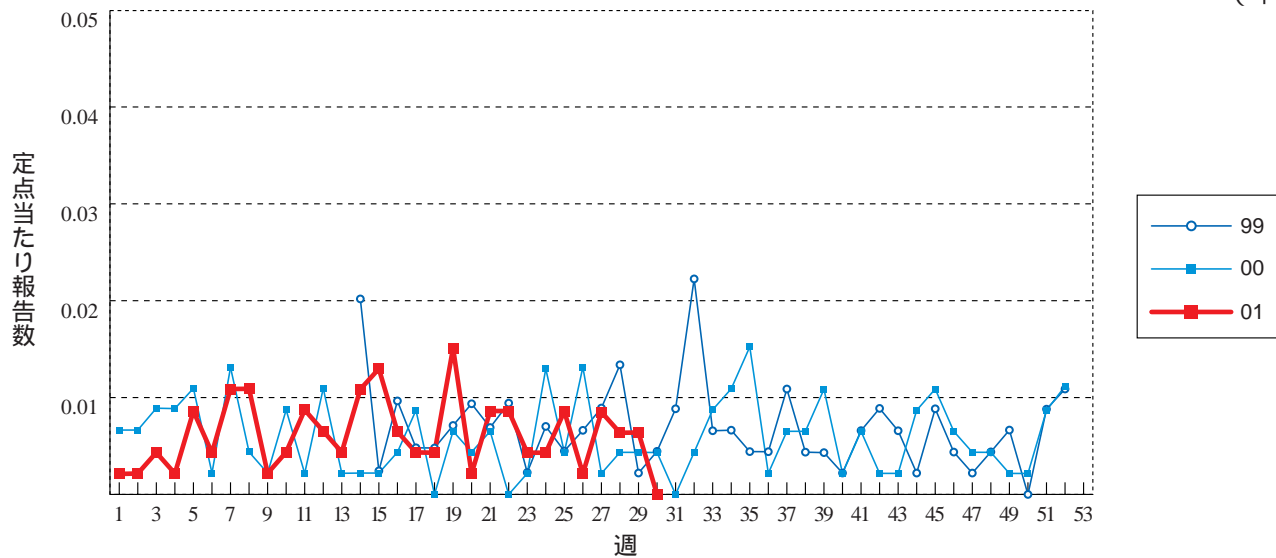


流行性角結膜炎



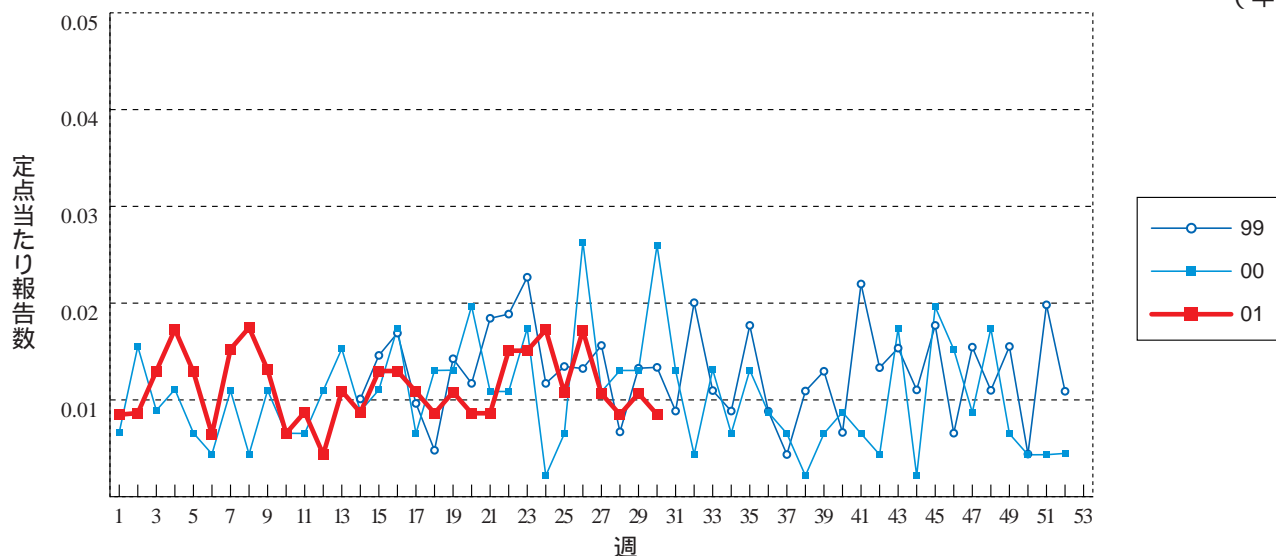
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



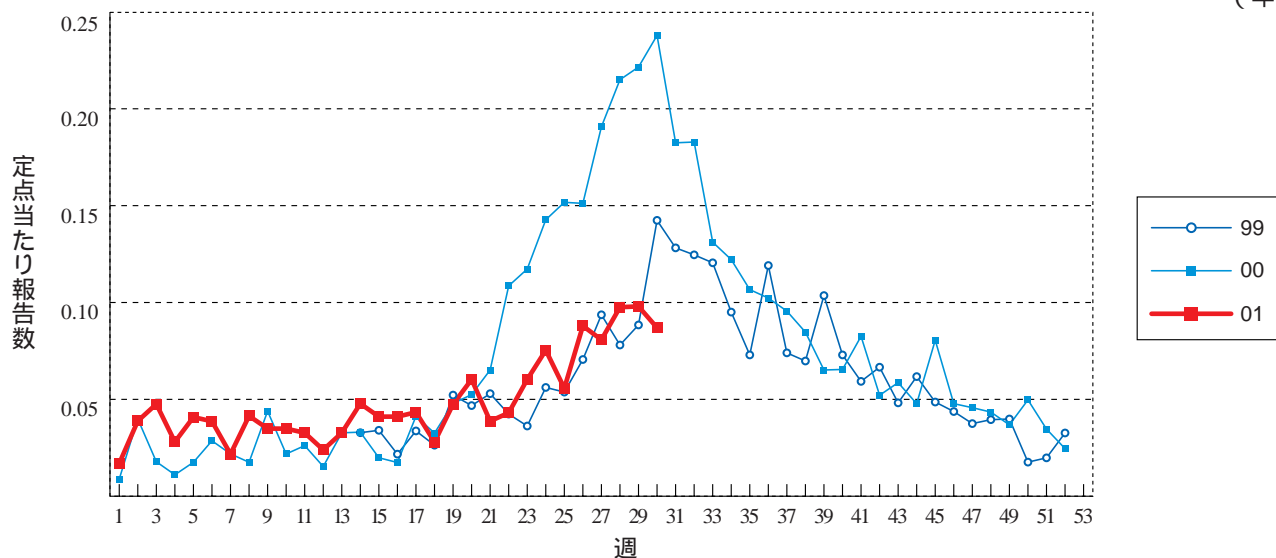
細菌性髄膜炎

(年)



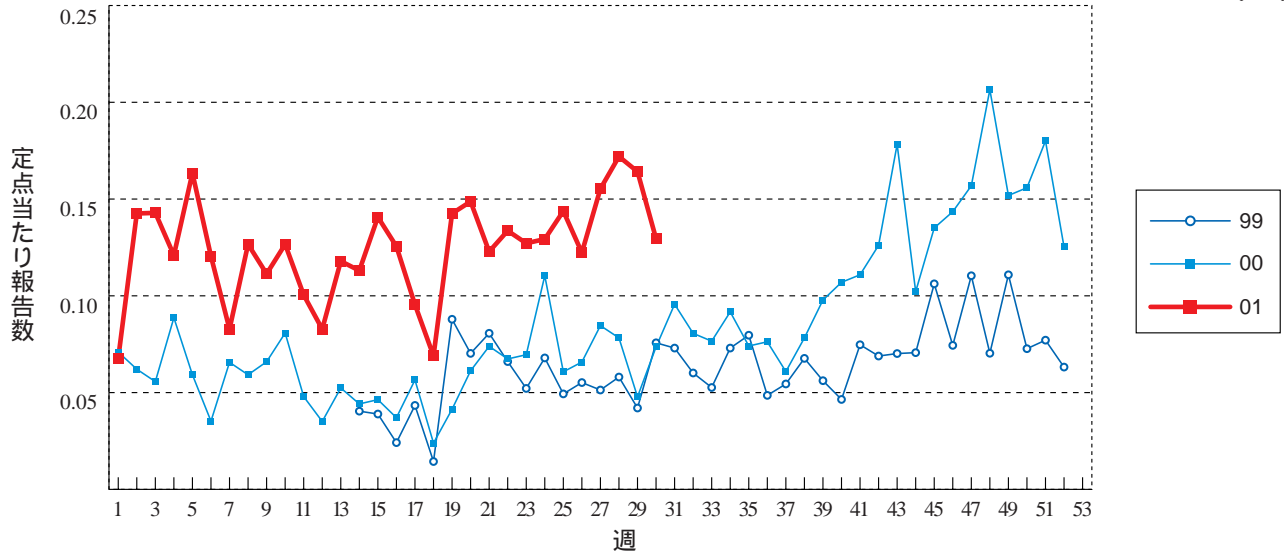
無菌性髄膜炎

(年)



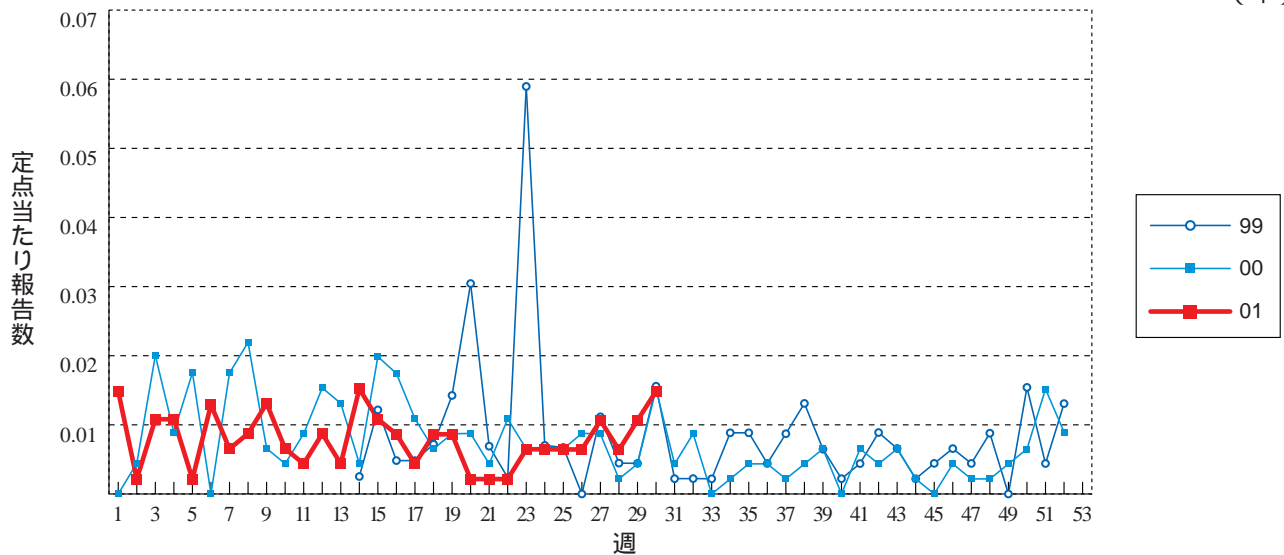
マイコプラズマ肺炎

(年)



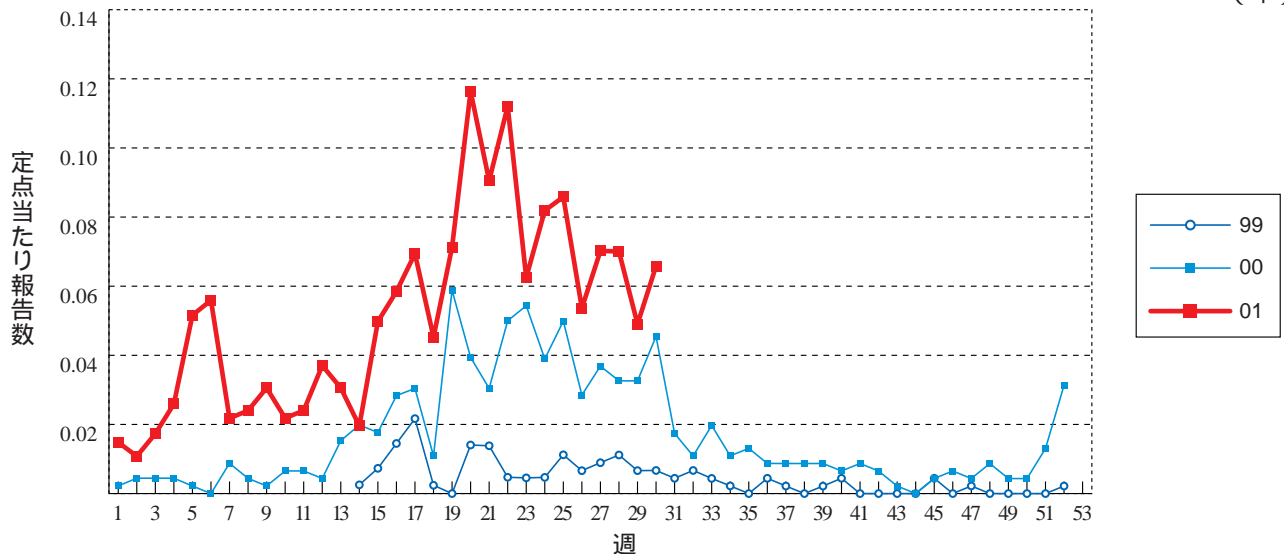
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





30週のデータ

注)表中の報告数は8月3日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年30週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		パラチフス		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	14	356	1	39	-	10	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9	-	1	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8	-	1	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	19	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	19	-	4	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	1	71	-	13	-	7	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	26	-	-	-	2	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	10	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	9	-	1	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	21	-	3	-	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	6	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	26	1	6	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	22	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	5	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	16	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年30週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	177	1858	7	211	-	5	-	-	-	23	-	-	17	511
北海道	-	-	-	-	6	52	-	3	-	5	-	-	-	-	-	-	-	6
青森県	-	-	-	-	3	16	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	2	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
宮城県	-	-	-	-	5	19	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	20
秋田県	-	-	-	-	1	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山形県	-	-	-	-	1	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	6	23	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
茨城県	-	-	-	-	2	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
栃木県	-	-	-	-	-	18	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6
群馬県	-	-	-	-	7	36	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	17
埼玉県	-	-	-	-	5	99	-	8	-	-	-	-	-	1	-	-	-	11
千葉県	-	-	-	-	4	196	-	8	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
東京都	-	-	-	-	6	144	2	67	-	-	-	-	-	6	-	-	4	74
神奈川県	-	-	-	-	7	153	1	13	-	-	-	-	-	-	-	-	2	35
新潟県	-	-	-	-	1	12	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	2	44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	3	36	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5
福井県	-	-	-	-	1	11	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山梨県	-	-	-	-	1	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長野県	-	-	-	-	1	14	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
岐阜県	-	-	-	-	-	5	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40
静岡県	-	-	-	-	4	26	-	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
愛知県	-	-	-	-	12	91	-	10	-	-	-	-	-	4	-	-	1	14
三重県	-	-	-	-	15	41	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	3	27	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	1	50	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
大阪府	-	-	-	-	14	191	1	33	-	-	-	-	-	3	-	-	-	49
兵庫県	-	-	-	-	15	94	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	1	48
奈良県	-	-	-	-	1	25	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
和歌山県	-	-	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
鳥取県	-	-	-	-	2	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
島根県	-	-	-	-	9	34	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	4	36	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
広島県	-	-	-	-	4	41	-	4	-	-	-	-	-	1	-	-	2	13
山口県	-	-	-	-	3	15	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	2	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
香川県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
愛媛県	-	-	-	-	4	36	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
高知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
福岡県	-	-	-	-	7	48	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	2	35
佐賀県	-	-	-	-	4	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	1	33	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
熊本県	-	-	-	-	4	13	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
大分県	-	-	-	-	2	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10
宮崎県	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
鹿児島県	-	-	-	-	1	12	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	13
沖縄県	-	-	-	-	-	10	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年30週

	Q熱		狂犬病		クリプトスפורジウム症		クロイツフェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		コクシジオイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	13	-	-	-	3	1	62	-	29	8	482	-	1	1	80	-	-
北海道	-	2	-	-	-	-	-	1	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	1	-	-	-	2	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2	1	9	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	15	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	1	18	-	-	-	2	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2	1	36	-	-	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	2	-	5	-	4	2	200	-	-	-	36	-	-
神奈川県	-	1	-	-	-	1	-	4	-	1	-	44	-	-	-	8	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	1	7	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	5	-	-	-	-	-	1	-	1	1	8	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	3	-	2	-	18	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	7	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	6	-	-	-	7	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	38	-	-	-	11	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	2	-	12	-	-	-	1	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年30週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	1	6	-	1	-	-	1	194	1	21	1	16	-	-	-	-	2	294
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	10
青森県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
山形県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	5
千葉県	1	1	-	-	-	-	-	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	9
東京都	-	1	-	-	-	-	-	4	-	9	-	-	-	-	-	-	-	52
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	5
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	9
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	67
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	14
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	3
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	13
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	1	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
宮崎県	-	1	-	1	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	22	-	-	-	3	-	-	-	-	-	2
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年30週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	1	34	-	22	-	-	-	-	-	-	-	-	56	-	3	1	42	
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	2	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山形県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
茨城県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	
栃木県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
群馬県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	
千葉県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
東京都	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	5	
神奈川県	-	2	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	
新潟県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	
富山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
石川県	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長野県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
岐阜県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
静岡県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	
愛知県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	2	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岡山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	
広島県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山口県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
徳島県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛媛県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
高知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
熊本県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮崎県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
沖縄県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年30週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	125	0.03	1683	0.56	1466	0.49	6104	2.02	3098	1.03	7151	2.37	1278	0.42	2705	0.90	35	0.01
北海道	6	0.03	61	0.42	105	0.72	172	1.19	317	2.19	458	3.16	27	0.19	101	0.70	-	-
青森県	4	0.06	29	0.69	12	0.29	50	1.19	53	1.26	88	2.10	17	0.40	29	0.69	-	-
岩手県	1	0.02	5	0.14	22	0.59	40	1.08	25	0.68	16	0.43	19	0.51	25	0.68	-	-
宮城県	-	-	31	0.53	31	0.53	164	2.78	67	1.14	104	1.76	48	0.81	75	1.27	-	-
秋田県	-	-	3	0.09	20	0.57	68	1.94	38	1.09	231	6.60	45	1.29	28	0.80	1	0.03
山形県	-	-	5	0.17	45	1.50	57	1.90	28	0.93	56	1.87	24	0.80	30	1.00	1	0.03
福島県	-	-	11	0.23	11	0.23	68	1.42	51	1.06	19	0.40	11	0.23	32	0.67	-	-
茨城県	-	-	43	0.59	36	0.49	120	1.64	48	0.66	51	0.70	15	0.21	40	0.55	-	-
栃木県	-	-	23	0.50	21	0.46	68	1.48	26	0.57	23	0.50	12	0.26	42	0.91	1	0.02
群馬県	-	-	87	1.43	45	0.74	84	1.38	41	0.67	56	0.92	35	0.57	37	0.61	-	-
埼玉県	11	0.04	186	1.16	122	0.76	343	2.14	227	1.42	309	1.93	103	0.64	186	1.16	1	0.01
千葉県	-	-	108	0.85	55	0.43	207	1.63	169	1.33	509	4.01	64	0.50	117	0.92	3	0.02
東京都	1	0.01	46	0.32	19	0.13	202	1.42	93	0.65	120	0.85	36	0.25	49	0.35	-	-
神奈川県	12	0.04	159	0.78	70	0.34	354	1.73	163	0.80	258	1.26	85	0.41	200	0.98	6	0.03
新潟県	-	-	46	0.77	35	0.58	104	1.73	73	1.22	108	1.80	8	0.13	64	1.07	-	-
富山県	-	-	-	-	28	0.97	52	1.79	24	0.83	16	0.55	14	0.48	22	0.76	1	0.03
石川県	-	-	1	0.03	4	0.14	111	3.83	28	0.97	47	1.62	17	0.59	34	1.17	-	-
福井県	-	-	-	-	7	0.32	90	4.09	31	1.41	204	9.27	11	0.50	18	0.82	-	-
山梨県	3	0.07	8	0.32	8	0.32	33	1.32	29	1.16	120	4.80	14	0.56	15	0.60	-	-
長野県	-	-	36	0.67	35	0.65	119	2.20	77	1.43	275	5.09	29	0.54	47	0.87	1	0.02
岐阜県	10	0.14	62	1.32	37	0.79	80	1.70	68	1.45	210	4.47	31	0.66	33	0.70	-	-
静岡県	-	-	84	0.98	31	0.36	187	2.17	82	0.95	301	3.50	43	0.50	77	0.90	-	-
愛知県	1	0.01	135	0.74	94	0.52	275	1.51	147	0.81	435	2.39	107	0.59	154	0.85	5	0.03
三重県	-	-	42	0.93	22	0.49	154	3.42	51	1.13	249	5.53	37	0.82	47	1.04	-	-
滋賀県	-	-	46	1.44	10	0.31	47	1.47	19	0.59	6	0.19	12	0.38	15	0.47	1	0.03
京都府	-	-	19	0.25	39	0.51	207	2.72	54	0.71	29	0.38	30	0.39	46	0.61	-	-
大阪府	-	-	46	0.24	82	0.42	404	2.08	192	0.99	62	0.32	46	0.24	172	0.89	2	0.01
兵庫県	3	0.02	16	0.13	36	0.29	342	2.71	157	1.25	216	1.71	34	0.27	143	1.13	2	0.02
奈良県	1	0.02	7	0.20	17	0.49	68	1.94	42	1.20	13	0.37	30	0.86	35	1.00	-	-
和歌山県	-	-	9	0.29	5	0.16	43	1.39	8	0.26	9	0.29	2	0.06	39	1.26	-	-
鳥取県	2	0.07	9	0.47	29	1.53	87	4.58	9	0.47	11	0.58	2	0.11	22	1.16	-	-
島根県	-	-	3	0.13	3	0.13	59	2.57	13	0.57	20	0.87	1	0.04	16	0.70	-	-
岡山県	-	-	14	0.26	13	0.24	83	1.54	23	0.43	49	0.91	5	0.09	36	0.67	1	0.02
広島県	-	-	57	0.76	32	0.43	161	2.15	44	0.59	113	1.51	34	0.45	65	0.87	-	-
山口県	-	-	37	0.76	43	0.88	130	2.65	36	0.73	415	8.47	42	0.86	56	1.14	1	0.02
徳島県	-	-	3	0.13	12	0.52	46	2.00	35	1.52	20	0.87	7	0.30	32	1.39	1	0.04
香川県	-	-	13	0.41	4	0.13	52	1.63	20	0.63	21	0.66	11	0.34	36	1.13	-	-
愛媛県	-	-	15	0.38	25	0.64	121	3.10	41	1.05	78	2.00	24	0.62	46	1.18	1	0.03
高知県	-	-	20	0.65	15	0.48	42	1.35	36	1.16	30	0.97	8	0.26	18	0.58	-	-
福岡県	62	0.34	57	0.54	56	0.53	342	3.26	158	1.50	446	4.25	58	0.55	119	1.13	4	0.04
佐賀県	-	-	21	0.91	12	0.52	26	1.13	49	2.13	159	6.91	5	0.22	37	1.61	-	-
長崎県	-	-	-	-	14	0.29	50	1.04	18	0.38	142	2.96	16	0.33	24	0.50	1	0.02
熊本県	1	0.01	8	0.16	25	0.51	99	2.02	39	0.80	274	5.59	15	0.31	67	1.37	-	-
大分県	-	-	25	0.69	22	0.61	136	3.78	49	1.36	167	4.64	11	0.31	51	1.42	-	-
宮崎県	-	-	21	0.57	37	1.00	150	4.05	42	1.14	184	4.97	25	0.68	57	1.54	-	-
鹿児島県	4	0.04	24	0.40	19	0.32	199	3.32	41	0.68	415	6.92	8	0.13	60	1.00	-	-
沖縄県	3	0.05	2	0.06	1	0.03	8	0.24	17	0.50	9	0.26	-	-	11	0.32	1	0.03

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年30週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	61	0.02	14628	4.84	731	0.24	6379	2.11	34	0.05	1030	1.62	-	-	4	0.01	41	0.09
北海道	5	0.03	495	3.41	81	0.56	334	2.30	-	-	47	1.62	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	144	3.43	8	0.19	67	1.60	-	-	21	1.91	-	-	-	-	-	-
岩手県	1	0.03	203	5.49	1	0.03	41	1.11	1	0.08	6	0.50	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	662	11.22	3	0.05	73	1.24	-	-	3	0.27	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	178	5.09	2	0.06	47	1.34	1	0.14	1	0.14	-	-	-	-	-	-
山形県	1	0.03	175	5.83	-	-	42	1.40	1	0.13	4	0.50	-	-	-	-	-	-
福島県	1	0.02	606	12.63	37	0.77	54	1.13	2	0.17	28	2.33	-	-	-	-	-	-
茨城県	2	0.03	269	3.68	6	0.08	196	2.68	-	-	57	3.56	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	184	4.00	2	0.04	47	1.02	-	-	31	2.58	-	-	1	0.14	1	0.14
群馬県	-	-	284	4.66	6	0.10	54	0.89	2	0.14	28	2.00	-	-	-	-	1	0.10
埼玉県	6	0.04	1025	6.41	30	0.19	383	2.39	1	0.03	67	1.86	-	-	-	-	-	-
千葉県	6	0.05	817	6.43	14	0.11	325	2.56	1	0.03	91	2.76	-	-	-	-	-	-
東京都	2	0.01	592	4.17	22	0.15	134	0.94	-	-	23	1.64	-	-	-	-	1	0.04
神奈川県	7	0.03	1291	6.30	41	0.20	444	2.17	8	0.19	89	2.12	-	-	-	-	1	0.09
新潟県	-	-	442	7.37	1	0.02	205	3.42	-	-	9	1.00	-	-	1	0.08	4	0.31
富山県	-	-	366	12.62	-	-	71	2.45	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	90	3.10	3	0.10	150	5.17	-	-	6	0.86	-	-	-	-	-	-
福井県	1	0.05	71	3.23	3	0.14	112	5.09	-	-	5	1.67	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	81	3.24	-	-	31	1.24	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	460	8.52	7	0.13	179	3.31	1	0.10	23	2.30	-	-	-	-	4	0.36
岐阜県	-	-	138	2.94	15	0.32	125	2.66	1	0.09	6	0.55	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.01	562	6.53	23	0.27	234	2.72	-	-	27	1.35	-	-	-	-	-	-
愛知県	6	0.03	656	3.60	67	0.37	389	2.14	-	-	57	1.63	-	-	-	-	1	0.08
三重県	-	-	284	6.31	2	0.04	63	1.40	-	-	6	0.50	-	-	1	0.11	1	0.11
滋賀県	-	-	153	4.78	6	0.19	63	1.97	-	-	8	1.14	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	247	3.25	8	0.11	150	1.97	1	0.06	8	0.44	-	-	-	-	-	-
大阪府	3	0.02	593	3.06	27	0.14	430	2.22	2	0.04	41	0.79	-	-	-	-	6	0.50
兵庫県	2	0.02	630	5.00	11	0.09	142	1.13	-	-	30	0.88	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	163	4.66	7	0.20	65	1.86	-	-	13	1.44	-	-	-	-	1	0.17
和歌山県	1	0.03	163	5.26	10	0.32	91	2.94	-	-	6	1.50	-	-	-	-	3	0.27
鳥取県	-	-	79	4.16	1	0.05	5	0.26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	107	4.65	11	0.48	17	0.74	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	263	4.87	7	0.13	45	0.83	-	-	20	1.67	-	-	-	-	-	-
広島県	3	0.04	374	4.99	19	0.25	65	0.87	1	0.05	43	2.15	-	-	-	-	7	0.33
山口県	-	-	166	3.39	19	0.39	70	1.43	1	0.11	27	3.00	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	120	5.22	3	0.13	38	1.65	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	218	6.81	1	0.03	82	2.56	-	-	10	3.33	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	363	9.31	-	-	129	3.31	1	0.14	17	2.43	-	-	-	-	1	0.17
高知県	-	-	123	3.97	-	-	7	0.23	-	-	8	2.67	-	-	-	-	-	-
福岡県	1	0.01	247	2.35	78	0.74	490	4.67	-	-	90	3.75	-	-	-	-	3	0.20
佐賀県	1	0.04	48	2.09	5	0.22	137	5.96	-	-	1	0.25	-	-	-	-	1	0.17
長崎県	3	0.06	76	1.58	24	0.50	47	0.98	7	0.70	7	0.70	-	-	1	0.07	1	0.07
熊本県	1	0.02	124	2.53	26	0.53	109	2.22	1	0.11	21	2.33	-	-	-	-	2	0.13
大分県	2	0.06	110	3.06	15	0.42	87	2.42	-	-	5	1.00	-	-	-	-	-	-
宮崎県	3	0.08	129	3.49	36	0.97	103	2.78	1	0.25	10	2.50	-	-	-	-	1	0.14
鹿児島県	2	0.03	50	0.83	2	0.03	115	1.92	-	-	15	2.50	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	7	0.21	41	1.21	92	2.71	-	-	11	1.10	-	-	-	-	1	0.14

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成13年30週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	61	0.13	7	0.01	31	0.07
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	2	0.10	-	-	-	-
宮城県	6	0.50	2	0.17	-	-
秋田県	2	0.25	2	0.25	-	-
山形県	1	0.10	-	-	1	0.10
福島県	1	0.14	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	1	0.09
栃木県	1	0.14	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	1	0.11
千葉県	2	0.15	-	-	3	0.23
東京都	-	-	-	-	11	0.44
神奈川県	1	0.09	-	-	5	0.45
新潟県	2	0.15	-	-	1	0.08
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	2	0.33	-	-	-	-
山梨県	2	0.20	-	-	1	0.10
長野県	-	-	-	-	1	0.09
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.13	-	-	-	-
愛知県	4	0.31	-	-	-	-
三重県	1	0.11	-	-	-	-
滋賀県	2	0.29	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	7	0.58	-	-	1	0.08
兵庫県	-	-	-	-	-	-
奈良県	1	0.17	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	0.20	-	-	-	-
広島県	3	0.14	3	0.14	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-
徳島県	1	0.17	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	2	0.33	-	-	-	-
高知県	4	0.50	-	-	-	-
福岡県	1	0.07	-	-	2	0.13
佐賀県	4	0.67	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	2	0.13	-	-	-	-
大分県	1	0.10	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	4	0.33	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	3	0.43

感染症週報 第3巻、第30号 平成13年8月10日発行
発行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課
厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
TEL：03-5285-1111
FAX：03-5285-1129

URL：http://idsc.nih.go.jp/index-j.html
<国立感染症研究所 感染症情報センター>
http://www.mhlw.go.jp/
<厚生労働省>
http://www.forth.go.jp/
<旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。